

S.F.A.通信 第14号

(和歌山県漁業士連絡協議会報)

平成21年2月
発行：和歌山県漁業士連絡協議会

S.F.A. (=Senior Fishery Adviser、漁業士)

◆漁業士

将来の中核的漁業者として期待される漁業者や、優れた漁業経営を行い指導的役割を果たしている漁業者をそれぞれ「青年漁業士」、「指導漁業士」として和歌山県知事が認定しています。現在は105名の漁業士が地域漁業の担い手として活躍しています。

和歌山県漁業士連絡協議会

会員相互の連絡調整や交流資質向上を目的に、平成元年に発足しました。年1回の総会その他、他府県との交流会の開催、魚食普及活動、部会での活動などを通じて、お互いの情報交換や親睦を図っています。

～漁業士認定～

平成21年2月18日(水)にアバローム紀の国において、「農業士・グリーンワーカー・漁業士認定式」が行われました。

認定式では、三尾漁協の森澤勝典さん(一本釣り)、宇久井漁協の浦山昌嗣さん(曳縄・一本釣り)、紀州日高漁業の前田功二さん(一本釣り・曳縄・採貝)、和歌山南漁協の浜本浩さん(一本釣り)が青年漁業士から指導漁業士に認定されました。

また、比井崎漁協の市川将彦さんと西中昭冶さんが新しく青年漁業士として認定されました。



市川さん、西中さん



認定書の授与

～漁民の森の下草刈り～

平成18年2月に植樹を行った「漁民の森」(岩出市:根来山元気の森内)において平成20年6月21日(土)に保育のための草刈り作業を行いました。

当日は海草、有田地域の会員と漁業関係者、そしてNPO法人根来山げんきの森倶楽部のメンバーなど24名が参加しました。

夏場の成長時期に幼木に光を当てるため、生い茂った雑草を鎌や草刈り機を使って刈り取りとりました。

草刈り終了後は、NPOメンバーにより釜で炊いた『山菜ご飯』と、竹の子、タラの芽、わらび、タマゴダケ、ヒラタケの『天ぷら』を作っていただき、昼食を食べながらの交流を行いました。NPOのメンバーの方からは山の子供たちを海へ連れて行き、交流をはかりたいとの依頼がありました。



～通常総会～

平成20年7月19日(土)和歌山県水産試験場において、平成20年度通常総会を開催するとともに、懇親会を行い会員相互の親睦を深めました。

総会では、平成19年度の事業報告が行われ、各部会などの活動報告もされました。総会開始前には水産試験場の職員さんにより、『試験研究の取り組み状況について』の講演会が行われました。



～兵庫・徳島・和歌山3県漁業士交流会～

今年徳島県が開催県となり、平成20年10月7日(火)～8日(水)に3県の交流会が開催されました。1日目は徳島県庁において、各県漁業士会の取り組みを報告、意見交換を行いました。また、2日目は徳島市内町コミュニティーセンターにおいて、徳島県内の一般の方を対象に、各県漁業士による営んでいる漁業を説明したり、魚食普及料理教室では旬の魚を用いた海鮮丼を作りました。



参加者への漁法の説明



魚食普及活動

～わかやま食育フェアへの参加～

平成20年11月15日(土)和歌山市中野のパームシティ和歌山において開催されたわかやま食育フェアにおいて漁業士連絡協議会の活動内容紹介パネルの展示やチリメンジャコに混じっている稚魚をより分けて、何の稚魚かを当てる『ちりめんモンスターを探せ!』を行いました。小さな子供から大人の方まで夢中になってめずらしい稚魚を探していました。



～実績発表大会が開催されました～

平成20年11月19日（水）に水産会館において、第22回実績発表大会が開催されました。有田地区漁業青年協議会に所属の南村嘉秀さんが、「教育ファームに取り組んで ～ヒラメの栽培漁業を通じた食育活動～」と題し、田栖川小学校の生徒と行った国の補助事業である「教育ファーム」の活動を報告しました。「教育ファーム」では、子供たちはヒラメの「餌やり体験」やヒラメを増やす「稚魚放流体験」、ヒラメを漁獲する「底びき網漁業体験」、また、ヒラメを食べる「漁師のおさかな料理教室」といった『栽培漁業』のすべての行程を体験したそうです。子供たちへ魚に対する興味を持ってもらい、漁業への理解を深めてもらおうとする取り組みに、会場の漁業者や関係者の方も興味を持って聞き入っていました。



～船びき網部会～

部会長：高井宏・書記：磯本幸也

開催日：平成20年11月12日(水)26日(水)

場 所：和歌山市立和歌浦・有功小学校

・11月12日(水)和歌浦小学校3年生70人を対象に漁業の講座を、また、11月26日(水)には有功小学校1年生55人を対象に漁業の講座としらすの試食会を開催しました。



～有田地区部会～

部会長：宮崎正・書記：南村明

開催日：平成20年7月15日(火)

場 所：双苑

有田市内において、今年度の部会の取り組みについて検討するとともに、各漁業士から漁業の状況についての意見交換を行いました。その後、部員間の交流、親睦をはかりました。



～まき網部会～

部会長：松村和映・書記：宮本哲

開催日：平成19年12月18日(火)

場 所：田辺漁協漁村センター

勉強会として、水産試験場から「アジ・サバ等の資源状況や海の状況について」の講演と水産振興課から「漁業の担い手対策事業等について」説明を受け、その後、部会の取り組みについて話し合いました。



～東牟婁部会～

部会長：杉本武雄・書記：白井圭士

開催日 1月23日

場 所 栽培漁業センター 会議室(那智勝浦町)

講 演 カツオ漁場(長期予測)への挑戦

東牟婁漁村青年協議会と共同で開催。水産試験場の御所副主査研究員から、カツオひき縄漁業の漁場長期予報システムの研究についての講演を聴いた。



☆☆☆われら漁業士!!☆☆☆

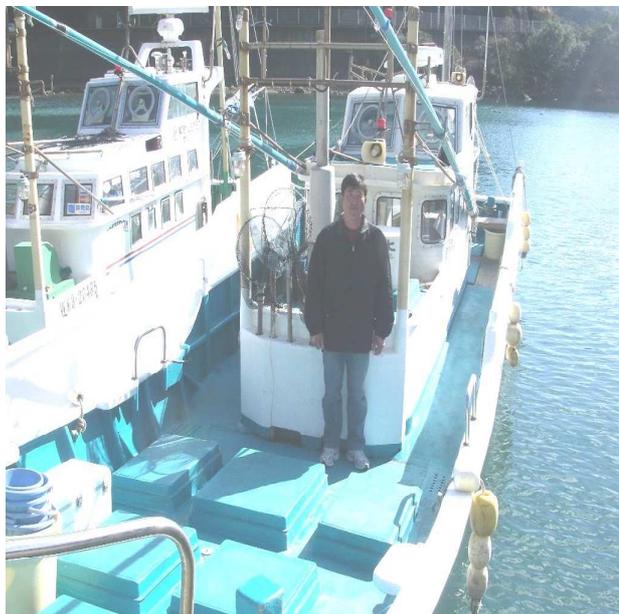
漁業を魅力ある仕事に！

和歌山南漁業協同組合白浜支所
指導漁業士 濱本浩

平成18年度に青年漁業士に認定され、この2月に指導漁業士に認定されました濱本です。

私が漁業を始めたきっかけは、漁業を営んでいた父親から、後を継いでほしいという話があったことが始まりです。

そして私が漁師になると決意した時、父親から、漁師をするなら学はいらないという話もあり、中学を卒業後すぐに漁師になり、3年間高校に行くつもりで父親と一緒に船に乗りました。その3年間では、主にイサキの一本釣り、はえ縄漁業、棒受網漁業を習いました。そして、3年が経った頃父親からひとりでやってみろという話もあり、18歳で独立しました。独立して最初



は、主にガシラ縄やクエ縄といったはえ縄漁業をしていましたが、19歳で新しく船を造り、組合の先輩にひき縄釣り漁業を習いました。また、独立した当初は、家族の協力のもと棒受網漁業も行っていましたが、水揚げしてからの魚の仕分けの手間や人手の確保、コストを考えた時、一本釣りによる利益との違いがあまり見られなかったため、現在は、3、4、5月はひき縄釣り漁業によりカツオを狙い、それ以外の季節は、季節に応じイサキ、タイ、メジロ、シオ、クエ等の一本釣りを行っています。

私が漁師になって25年経ちますが、魚は全般的に少なくなっているように感じます。そのため、私も資源管理を意識し、漁場を変えながら漁業を行い、小さいサイズの魚を釣り上げてしまうようなポイントには行かないよう心がけています。また、これからの漁業は、資源管理とともに漁獲量の減少を補うためにも魚価を上げる工夫をしていかなければならないと思います。私自身も魚の取り扱いに気をつけながら出荷していますが、もっと地域が一体となって魚価向上の工夫をしていければと考えています。

そして、私が漁師になった時から既に言われていたことですが、後継者を育成することも考えていかなければなりません。しかしながら、そのためには漁業が魅力ある仕事でなければならないし、そういった環境を整えたいうえで、秩序ある海の利用を行える後継者を育てる事が我々の役割だと思っています。

お問い合わせ先

県庁水産振興課	☎073-441-3000	林主査
海草振興局産業総務課	☎073-441-3372	山田普及指導員
有田振興局産業総務課	☎0737-64-1286	干川普及指導員
日高振興局産業総務課	☎0738-24-2946	上出普及指導員
西牟婁振興局産業総務課	☎0739-26-7910	古川普及指導員
東牟婁振興局産業総務課	☎0735-21-9604	向野普及指導員

